



佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



2021年
12月号

今年も残すところあとわずかとなりました

この1年はどのような年だったでしょうか。初めての院生生活はあっという間に過ぎていったように感じています。さて後学期の授業では、それぞれのコースごとに専門性を追究した内容を多く学んでいます。より専門的になったために難しいこと、悩むことも多いですが院生の仲間と協力しあいながら日々頑張っています。

今回は、各コースの授業内容についてご紹介します。



○授業実践探求コース

授業実践探求コースでは、授業の研究の方法や ICT の利活用教育、学習評価など、来年度の研究や今後の授業実践に向けた授業に取り組んでいます。「授業実践の研究」という授業では、授業実践をどのように分析し、解釈するのかを学んでいます。実際に佐賀大学附属小学校の4年生と、佐賀大学附属中学校の2年生の両方の道徳科の授業を参観させていただきました。実際に分析を行い、授業の分析をすることの難しさや大変さを改めて感じました。この授業での経験を、来年度の実践研究に活かしていこうと思います。(ストマス)

○子ども支援探究コース

子ども支援探究コースの後期の授業では、生徒指導や子どもの発達やその過程、障害のある子どもの理解と支援など、様々な視点から「子どもたちの理解と支援」についてご教授いただいています。その中で、現職院生（現職教員等学生）は現任校を、ストマス（学部卒業生等学生）は実習校での取り組みを振り返って考えたり、学齢期だけでなく、乳幼児期の子どもの発達について学んだりしています。さまざまな顔を見せる子どもたちを適切に理解し、よりよい支援につなげていけるように学びを深めていきたいと思います。(現職)

○教育経営探究コース

教育経営探究コースでは、来年度、それぞれの現任校で勤務しながら行う「学校変革試行実習」に向けての具体的な計画づくりを、担当の先生のご指導の下に進めているところです。現任校の分析に基づいて見出した課題の解決に取り組むのですが、研究を進めていく上での先行研究レビューとの整合性を意識するとともに、学校変革に際し、周囲の職員を巻き込む「協働」にいかんしてつなげていくかが今後の大きなテーマです。来年1月から、現任校の職員も交えた準備に入りますが、教職大学院で得た知見を活かし、少しずつ学校改善につなげていきたいと考えています。(現職)

